



オレンジに色づき、収穫期を迎えたベビーパーシモン。20日午後1時25分、本巣市上保(撮影・安藤茂喜)

小さい秋、小さい柿 見つけた

■本巣市でベビーパーシモン収穫始まる

本巣市上保で、ベビーパーシモンと呼ばれる品種の小さな柿が収穫期を迎えた。直径3センチほどの果実を枝いっぱいに実らせ、秋の訪れを告げている。

J A全農岐阜によると、ベビーパーシモンは新潟県で30年近く前に見つかった突然変異の渋柿。4年前から近畿大などが共同研究して商品化、商標登録された。20～30グラムの一口サイズ。糖度は高く、平均20度以上といい、皮をむかなくても食べられる。

富有柿などを生産する柿農家の加藤泰一さん(71)の畑では、3年前から栽培。1週間ほど前に収穫を始め、今季は7本の木から昨季の5倍の約500キロを採る。脱渋した後に愛知県内の市場に出荷され、主に料亭で使われる。収穫は来月上旬まで続く。

加藤さんは「きれいで肉質のよい実がなった」と笑顔で話していた。(松田尚康)